

第 29 回日本義肢装具学会学術大会

佐賀県医療センター好生館 山之内 直也

1. はじめに

2013年10月26日～10月27日、佐賀県佐賀市の佐賀市民文化ホールにて、「義肢装具を創るということ～物、人、そして繋がりを～」をテーマに、第29回日本義肢装具学会学術大会を開催しました。前日まで台風が日本列島に接近してきておりましたが、皆様の日頃の行いの賜物か、大会当日は晴天のもと、無事開催することができました。会長講演を皮切りに、特別講演、教育講演、シンポジウム、パネルディスカッション、ランチョンセミナー、装具製作コンペティション、一般演題、市民公開講座等を行いました。一般演題は222演題（口演120、ポスター102）でした。

2. パネルディスカッション

2日目の第一会場でパネルディスカッション「義肢装具での歩行と車椅子での移動を創る～歴史から未来を考える～」が行われました。

大阪大学の松田靖史氏は、義肢装具と車椅子の発展・進化の歴史をたどりながら、今後の展望について発表されました。

兵庫県立福祉のまちづくり研究所の中村俊哉氏は、車椅子SIGでの歴史調査の中から、車椅子の歴史を踏まえ、未来の車椅子への考察を発表されました。

神奈川県総合リハビリテーションセンターの沖川悦三氏は、移動と姿勢に関する機能に着目して開発した車椅子の実例を紹介し、その開発経験から未来の車椅子について発表されました。

佐賀大学の松尾清美氏は、車椅子と移動補助器

具、住環境、車椅子の使い方や生活方法の実例を紹介されました。

3. シンポジウム

同じく、2日目の第一会場でシンポジウム「工学と新しい繋がりを創る」が行われました。

佐賀大学の林喜章氏は、電動義手の研究事例を挙げ、同大学での医工連携について紹介されました。

九州工業大学の永井秀利氏は、5指ロボットハンドを活用した筋電義手を例に挙げ、研究開発の過程での問題点や難しさについて発表されました。

九州大学の荒田純平氏は、小型軽量の手指ロボットの開発に関する取り組みについて発表されました。

鹿児島大学の余永氏は、脳卒中患者の運動機能を回復させる川平法を、医師や療法士に代わって再現できる治療用訓練ロボットの開発について発表されました。

東京大学の正宗賢氏は、診断・治療を支援する低侵襲手術デバイス・システムの開発研究について発表されました。

4. さいごに

現在も進行している高齢化社会に対して、リハビリテーション工学の分野が必要性を増してきていること、医工連携の必要性など、数多くのことを感じる事ができた2日間でした。

次回（第30回）は、2014年10月18日～19日川崎医科大学の椿原彰夫先生を大会長に、岡山県・岡山コンベンションセンター（ママカリフォーラム）にて開催される予定です。

またどこかで皆様にお会いできる日を楽しみにしております。

佐賀県医療センター好生館

〒840-8571 佐賀県佐賀市嘉瀬町大字中原 400